

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 HAHAHA

1 事業の趣旨・目的

愛知県は公立小中学校における「日本語指導が必要な外国人児童生徒」の数が日本で一番多い県である。その愛知県の中でも西尾市は市民に占める外国籍住民が高い(5%弱)市のひとつであり、市内のほぼすべての小中学校に日本語指導を必要とする外国人児童生徒が在籍する。

こうした土地柄にもかかわらず、西尾市内においては指導方法や支援策のノウハウの蓄積がなく、また異文化理解・多文化共生の意識も高いとは言い難い。

本団体では、外国人児童生徒の教育にかかわる教員をはじめ、さまざまな立場で支援にあたっている人を対象に、外国人児童生徒支援に必要な知識や実践的な技能の習得を目的として講座を開いた。講座では、日本語／教科指導といった学習支援に関するテーマだけでなく、バイリンガル教育、心理、ソーシャルワーク等、幅広いテーマを扱い、支援者のスキルアップのために、外国人児童生徒の置かれている状況・環境の理解、支援体制の構築、支援者同士のネットワークの強化をねらいとした。また、今年度は 2009 年度の反省をふまえ、西尾市内で活動中の支援者を講座のパネリストに迎えることで、積極的な参加を促した。

2 企画委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
7月25日	青年の家	佐々木千里 櫻井千穂 川上喜美恵 飯田弘子 渡邊あづさ 菊池寛子	昨年度の反省と今年度 講座の内容企画	昨年度の実績を踏まえ、今年度の講座の方向性や内容について話し合う。
11月20日	青年の家	佐々木千里 櫻井千穂 田中ネリ 川上喜美恵 飯田弘子	研修中間ふりかえり	5 講座の成果、受講生の反応をもとに、残り 3 講座の方向性や内容について話し合う。

		渡邊あづさ 菊池寛子		
2月12日	ナンファー	佐々木千里 櫻井千穂 川上喜美恵 飯田弘子 渡邊あづさ 菊池寛子	今年度の講座全体のふりかえり 今後の講座の方向性	受講生のアンケートをもとに、今年度の講座全体の反省と、来年度の方向性について話し合う。

【写真】



3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 : 外国にルーツをもつ児童生徒のための日本語指導者養成講座②
～教育・医療・福祉の連携のために～
- (2) 養成講座の目標: 児童生徒に日本語を指導する上で必要な実践的知識の習得及び多文化ソーシャルワーカー的スキルの習得。
- (3) 受講者の総数 62 人(延べ人数ではなく, 受講した人数を記載すること。)
(出身・国籍別内訳 日本 55人, ブラジル 5人, ペルー 2人)
- (4) 開催時間数(回数) 24 時間 (8 回)
- (5) 参加対象者の要件: 国際教室担当教員、現語学相談員(通訳)、クラス担任、
および外国人児童生徒の日本語支援・学習支援に関心がある者
- (6) 受講者の募集方法:
チラシ…西尾市及び近隣市町村の教育委員会後援をとり、各学校へ配布、
西尾市及び近隣市町村の市役所福祉関係各課にチラシ配布
口コミ…教育委員会経由や学校経由、またこれまでにあるネットワークを
つかって参加を呼び掛ける
西尾市広報
(別添チラシ参照)
- (7) 研修会場: 西尾市青年の家(西尾市錦城町162番地14)
- (8) 使用した教材・リソース: 各講師が作成した資料と推薦図書
『まんがクラスメイトは外国人』
『私も「移動する子ども」だった』

- 『日本語が話せないお友だちを迎えて』
『現代フィリピンを知るための 61 章 第2版』
『母語を活用した内容重視の教科学習支援方法の構築に向けて』
『イラスト版ロジカル・コミュニケーション』
『文化間移動する子どもたちの学び』
『「移動する子どもたち」のことばの教育を創造する』

(9) 講座内容

日時	講座名／学習内容	講師	受講者数
8月28日(土) 13:00～16:00	日本語担当教諭による 実践報告&情報交換	<パネリスト> 中内悦子(西尾市立鶴城小 学校) 石川千加子(知立市立知立 東小学校) 杉浦あけみ(碧南市立鷺塚 小学校) 外狩香代子(安城市立祥南 小学校) <コーディネータ> 小山幾子(豊田市立東保見 小学校)	26名
9月4日(土) 13:00～ 16:00	(語学)支援員たちによ る実践報告&情報交 換	<パネリスト> 塩谷明美(西尾市支援員) エミ富松アントゥネス(刈谷 市支援員) 早川真理(社会福祉士) 川上喜美恵(中野郷保育 園) <コーディネータ> 佐々木千里(社会福祉士、 スクールソーシャルワーカー ・スーパーバイザー)	27名
10月9日(土) 13:00～16:00	リライト教材作成 (小学校・中学校)	村山勇(兵庫県神戸市立こ うべ小学校) 五十嵐恵美(豊橋市教育委 員会外国人児童生徒教育 相談員)	24名

10月30日(土) 13:00~16:00	連携の視点から見る西保見小の外国人児童教育のシステム	澁谷光之(豊田市立西保見小学校)	22名
11月20日(土) 13:00~16:00	『『こころ』のケア 連携に支えられて』	田中ネリ(四ッ谷ゆいクリニック 臨床心理士)	19名
12月18日(土) 13:00~16:00	「知立南中学校の実践」	齋藤周洋(知立市立知立南中学校)	23名
1月29日(土) 13:00~16:00	よりよい言語支援のために	櫻井千穂(大阪大学大学院博士後期課程)	15名
2月5日(土) 13:00~16:00	よりよい環境づくりのために	佐々木千里(社会福祉士、スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー)	17名

(10) 講座の評価

① 受講生に対するアンケート

回	大変満足	満足	まあまあ	やや不満	不満	無記入
1	8	4	1	0	0	0
2	4	4	1	0	0	3
3	8	4	0	0	0	1
4	9	3	0	0	0	0
5	3	3	1	0	0	0
6	13	6	0	0	0	0
7						
8	11	2	1	0	0	1

【受講生の評価(アンケートから抜粋)】

- ・連携の大切さ、市教委・役職者・担任の理解が大切さがよくわかった。
- ・外国籍児童の抱える問題をもっと全体に理解してもらうために、どんどんアピールする必要があるということがわかった。
- ・学校の日々の仕事に追われているが、こうやって講座に参加して先生のお話を伺ったり、各学校の先生方のご意見をうかがったりすると「次はこうしてみよう」「こういう事をするのが大切なのだ」と気づかされる。「あー！」とアイデアが浮かぶ。そうしたことが財産になっていくと思う。

- ・取り出し指導の意義、入り込み指導の意義について考えさせられた。外国人児童生徒の学校の取り組み方(授業の組み方)が参考になった。子どもの学習意欲を高めるために、学習内容を丁寧に指導し、「できる」という感覚をもたせたいと思う。
- ・リライトの有効性と使い方がわかった。
- ・問題を抱える子どもと親を支援するにあたっての視点のもちかたを知ることができました。
- ・スクールソーシャルワーカーの仕事について知り、心強く思った。
- ・その子のストレングスで社会とのつながりをもっと深められる具体的な方法が聞けて良かった。
- ・毎回、帰りの車の中や、家に帰ってから、月曜日、子どもたちと向かい合ったときに、じわじわと講座のことを思い出します。この講座に後押しされ、校長とも、外国人児童のことについて話すようになりました。最初、迷いがありましたが、すべての会に出席できた今、満足感でいっぱいです。たくさんのお会いに幸せを感じています。教員人生、残り 10 年を切りました。すてきなライフワークが見つかった気がします。

② 実施主体からの研修内容結果評価

- ・本講座では昨年度から「連携」をキーワードにすすめてきた。子どもたちをよりよく支援していくには、支援者間、校種間、各専門機関とも連携を図っていくことが大切だという主催者側の意図が、昨年度よりも受講生に伝わったような感触がある。それは、講座の中で、受講生から出される意見やアイデアを聞いていて実感できたことである。これまでインプットするだけだった知識や技能を、受講生自身が自分の立場に照らし合わせて、自分の中で処理し、今度は自分の考えとしてアウトプットするようになったのは大きな前進であると考えている。

③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

- ・昨年度、今年度ともに、受講生の多くは国際教室の担当者や市町支援員、地域ボランティアなどがほとんどであった。受講生間のネットワークは広がっており、草の根レベルの支援体制の素地はできつつある。今後は、さらに研修会を重ねて体制作りを強化していくとともに、クラス担任など学校内で支援体制を整える立場の人が参加できる講座を企画する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

- ・西尾市就学前プレスクールスタッフに講座に参加してもらったことにより、小学校・中学校だけでなく、幼稚園・保育園との連携の重要性を受講生に気づいてもらうことができた。
- ・愛知県国際交流協会、西尾市国際交流協会共催「外国人の子どものための日本語ボランティア養成講座」で、本講座受講生がリーダーシップをとり、得た知識やこれまでの経験をもとに、発信することができた。

② 研修後の人材活用

- ・研修成果を、受講生が所属する市町教育委員会および学校、またはボランティア団
体で報告することによって、事業を外部にアピールし理解者を増やす。
- ・研修成果を日々行っている支援活動に活かす(学習支援の方法を実践する、連携
ための実践する)

(12) 今後の課題

- ・(10)-③で述べたように、受講生同士のネットワークは強まりつつある。
が、外国人児童生徒をより良く支援していくためには、学校内に支援体制を築くことが
不可欠である。今後の課題は、外国人児童生徒教育に対するクラス担任や管理職員
の意識を高め、学校内に支援体制をつくることである。そのためにまずはクラス担任を
対象とした講座を企画する必要がある。
同時に、今後も引き続き、外国人児童生徒の教育にかかわるすべての支援者を対象
とした講座を開講し、スキルアップやネットワーク強化を図っていく。
- ・保護者との連携、リーダーシップがとれる保護者の育成のために、子どもたちのおか
れている状況、必要なことについて保護者が理解を深める機会を設ける。